

Yamakado News Letter



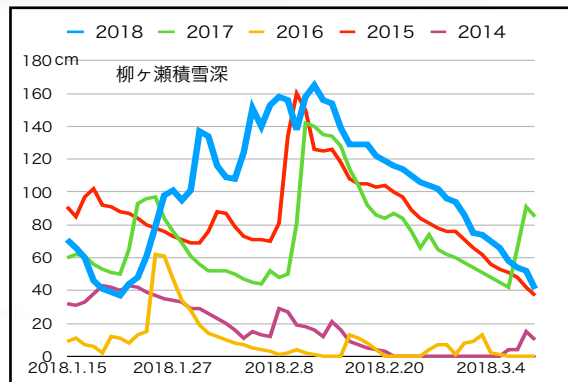
ネット再設置のための除雪を行う 南部湿原 3/10 Photo Fujimoto



天然更新試験地 3/6



ブナ林ササ保護区 3/7 Photo Fujimoto



雪解けが進み、急がれる防獣対策

柳ヶ瀬のデータですが、過去5年間の1月後半から3月前半までの日別最大積雪深をグラフ化してみました。そのグラフによれば、直近5年間では今年度が最も雪が多かったと言えそうです。積雪深が100cmを超える期間も29日間と最長でした。そうした積雪量も影響しているのか、今年度の足跡観察では湿原周辺でシカの足跡を見かけることはほとんどありませんでした。そんな雪も3月になると急激に減少し、南部湿原に隣接する牧場跡では3月4日に採餌に来ていた様子が確認されました。約6週間ぶりの訪問です。

雪が減り出すと、防獣ネットの再設置を急がなければいけません。完全に雪が消えてからでは新芽を食われてしまうので、消える前に設置を終わらせないとはいけません。短期間での作業で急を要します。しかし、逆に作業に取り掛かるのが早すぎると除雪が大変です。なかなかタイミングの難しい作業です。今年は2月24日を皮切りに、天然更新試験地、ブナ林のササ保護区、南部湿原とネット設置を行っていきました。ブナ林のササ保護区は標高差があるため、上層部はまだ完全に雪の中。下層部から順次行っています。



楽舎から資材を持って湿原へ 3/3
Photo Fujimoto



足場の悪い雪上を運搬 3/3
Photo Fujimoto

雪が多かった今季、シカはどうやって乗り越えたのでしょうか？

過去3回の糞粒調査からは山門水源の森の敷地内では湿原周辺でシカの利用度が高く滞在時間も長いという結果が出ています。それ以上に密度が高いと推定されるのが隣地の牧場跡です。その牧場跡では昨年から年間通してセンサービデオでシカ出現の記録を取っています。今年度は1月24日夜から雪が降り出して以降、シカの姿が全く見えなくなりました。牧場跡の草地も完全に雪に埋まってしまったので、来ても餌は得られないとわかっているのでしょうか。2月の積雪量が多い時期には、降雪期の待避場と思われる近隣のヒノキ林内をシカの足跡探しに周りまわりましたが全く見つかりません。どこか雪のない遠い所へ移動してしまったのかと想像しました。

ところが、雪が溶け出して地面が見え始めた途端にシカは戻って来ました。意外とずっと近場にいたのかもしれませんが。シカが牧場跡に戻ってきて以降は、だいたい2日おきにセンサービデオに映っています。ということは、2日間くらいかけて移動するルートをずっと餌を食べながら周回しているのかもしれませんが。あくまで想像です。GPS調査ができれば良いのですが…。



湿原より雪解けが進む牧場跡 3/6



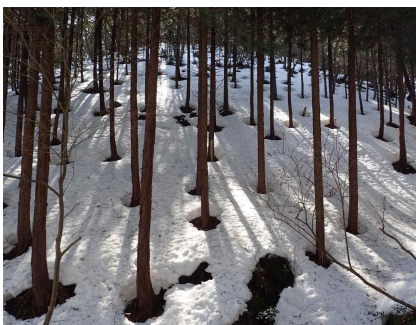
雪解け部で喰われたチシマザサ 3/7

早春の森の様子

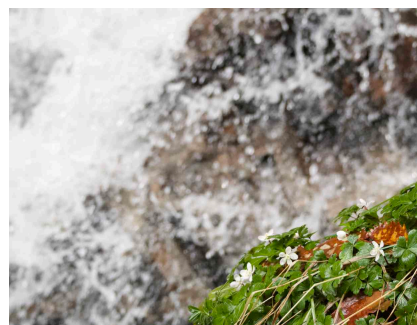
2月後半になると好天の日も続き、沢道では雪に覆われていた岩場の上も気がついたら雪が消えていました。姿を現した岩場の上のキタヤマオウレンはすでに蕾をつけた状態でした。2月28日に一輪目が開花。その後は次から次へと開花しています。沢道コースはさ

小さな花々のささやかですが、華やかさに彩られています。

また湿原では上から雪に押さえつけられていたマルバマンサクが、雪の重量がなくなるとムクリと幹を持ち上げ、その枝先に黄色い小さな花を広げ始めました。



ヒノキ林の根開き 3/3



滝の前で開花するキタヤマオウレン 3/7



湿原でまず咲いたマルバマンサク 3/6